



令和2年2月1日発行

No.7



## ごあいさつ

県母子部会長 田口 茂子

新年を迎え、皆さまお元気で過ごしてでしょうか。

昨年は台風15号、19号が甚大な被害をもたらしました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。いつもの生活に一日も早く戻れますことを願っております。

令和元年度の母子部会主催の行事を、皆さまのご協力で盛大に開催することができました。

「親子ふれあい会」では、鉄道博物館で大人が懐かしい電車に見入り、お母さんと嬉しそうにはしゃぐ子供たちに活力をもらいました。

「ひとり親家庭サポーターのつどい」では、発達障害について詳しく丁寧に説明していただきました。これからの生活に活かしたいと思います。多くの方が参加してくださいましたが、現在子育て中の母子会員の姿が少なかったことに対策が必要と感じました。お忙しいとは存じますが、次回はぜひご参加ください。小さなお子さまがいらっしゃる方は、託児室がありますのでご利用ください。

私事ですが、昨年の秋、娘が結婚して家を出ました。ひとり親になって泣いたり笑ったり、話をいっぱいしました。大変なこともあったはずなのに、幸せな思い出ばかりです。長い人生のうち、子どもが手元にいたのはわずかな期間だったと、今思っています。

現在子どもを抱えて大変な思いをしているひとり親の皆さん、子どもは宝です。大切に育ててください。困ったときは、先輩会員さんや相談員さん、身近な人に助けを求めてください。よきアドバイスをしてくれたり、力になってもらえたりすると思います。絶対にひとりで抱え込まないでください。皆で幸せになりましょう。

最後に、「栃木県ひとり親家庭福祉連合会」の発展と、今年は穏やかな年であることを祈念して、ごあいさついたします。

### 令和2年度全国統一活動テーマ

**つなごう人の輪、守ろう地域の輪** (前年と同じ)

### 令和2年度討議テーマ

母子に関するテーマ：目指そう自立、活かそう支援策 (前年と同じ)

母子・寡婦に共通するテーマ：母子と寡婦、共に育む子どもの未来

ひとり親家庭の子どもに関するテーマ：すべての子どもに安心と希望を！ (前年と同じ)

## 頑張ってます！

各市町母子会の活動状況や頑張っているお母さん、子どもたちを紹介します。

### \* 栃木市 \*

栃木市ひとり親家庭福祉会母子部では、毎年7月に加入促進事業バス旅行、10月は県連合会主催の親子ふれあい会参加、12月にはクリスマスケーキ作りと奉仕作業を行っています。

加入促進事業は市バスを使い、子どもたちが喜びそうな場所を考え、毎回どこへ行こうかと悩みながら企画をします。子どもたちのリクエストを聞きますと「遊園地・動物園・ディズニーランド」などがよく出ます。

今年は「那須サファリパーク」・「那須高原南が丘牧場」の2ヶ所に行きました。子どもたちは回を重ねるごとに仲良くなり、楽しそうに参加

してくれています。子どもたちの「楽しかった！」と「笑顔(^^)」を糧に、次の企画を考えていますが、最近はネタ切れになりつつあります。(笑)

今後は、若い人にバトンタッチができるよう、少しずつ世代交代を進めていけたらと考えています。(M・I)



### \* 鹿沼市 \*

「夏休みに何か楽しいイベントをやりたいね。」との言葉から、初めてのコラボ企画「ぶちとまとwith5つ星ジャパン☆サンキャッチャー作り」を8月10日(土)に行いました。

太陽とクリスタルが作る美しい虹の光で、深い癒しと幸せを呼ぶインテリア作り。コミュニケーションをとりながら、自分の好きな色や形のピースをつなぎ、太陽の光を当てたときの輝きを想像し、作品を作りました。できあがると、それぞれのすてきなサンキャッチャーの輝きにも負けない、皆さんの笑顔がたくさん見られました。

今回は、今までと違ってコラボ企画のため、会員さんだけでなく一般の参加者もいましたが、みんなで楽しい時間を共有できたことがよかったと思います。

今後も、学習支援の学び家やコラボ企画などの行事を通して、みんなで子どもたちの成長の場「人生の学びの家」になるとよいなと思います。

(森田)



### \* 真岡市 \*

5月19日(日)、2019年春にグランドオープンした、話題のムーミンバレーパークに行ってきました。

母子の参加が少なかったため、寡婦も一緒に市のバスを利用することになりました。お互いの交流の場となり、会話が尽きることなく、あっという間に到着しました。

「行ってみたい!」「気になる場所!」とあって、皆さん興味津々でした。現地では、自由行動で広い敷地をたくさん歩いて、楽しく過ごすことができたのではないのでしょうか?

参加者が減少しつつある中、子どもから大人まで、皆さんが喜んでくれる場所を考案できたらと思います。(I・H)

## 編集後記

「ぶちとまと」も、今回でNo.7となりました。令和の時代になり、消費税問題で大変なことになったのもつかの間、今回の台風19号で、皆さまのところも多大な被害を受けたこととされます。心からお見舞い申し上げます。

さて、「ぶちとまと」は皆さまのご協力により、いつも楽しい記事でいっぱいです。各地区の母子寡婦家庭の活動を心より応援しています。これからも「ぶちとまと」を皆さまが心待ちにしてくださいように、魅力ある投稿をお待ちしております。

2020年は東京オリンピックです。待ち遠しいですね。(M.M)

# 親子ふれあい会 ～ 鉄道博物館 ～

R1・10・5(土)

10月5日土曜日、鉄道博物館に行きました。鉄道博物館は通称「てっばく」です。

お天気に恵まれ、朝から子ども達のテンションは上昇中です。バスの中で朝ご飯を食べたり、おやつを食べたり、おしゃべりをしたり、子ども達のお口は動きっぱなしです。館内マップを見ながら、ワクワクがとまりません。人気のある体験展示は整理券が必要です。先着順ですので、どこから攻めるのが親子で検討会議です。

てっばくに到着し入館すると、いつのまにか知っている顔が見あたりません。大人も子どももどこに行ってしまったのでしょうか？

一番のメインコンテンツは中央にある車両ステーションです。巨大なフロアには36両も車両が展示されています。中央には転車台があり、大きな汽笛の合図とともに回転します。E F 55です。独特の先頭形状から「ムーミン」と呼ばれています。車両の特徴や当時のエピソードなど解説員が解説してくれます。他にも懐かしい車両がたくさんあります。2階に向かうと日本最大級の鉄道ジオラマがあります。

南館は体験できるコーナーとしてとても人気があります。実際に車掌の業務を体験することができます。北館にはキッズプラザがあり、小さな子ども達も楽しく遊べるスペースになっています。南館、北館の両方に駅弁屋さんがあります。駅弁を買ってランチトレインの中で食べている親子がいました。子ども向けの新幹線のランチケースに入ったお弁当をうれしそうに食べています。おかわりをしてふたつめのお弁当を食べていました。旅行気分も味わえます。きっと楽しい思い出になるのでしょうかね。

古き良きものから新しいものまで、子どもから大人まで楽しめる所でした。一度では見きれないほどたくさんのものが詰まっていた。とても充実した一日でした。

(塩谷地区連合体 橋本)

10月5日(土)、初めての参加で不安もあったのですが、親子ふれあい会に参加させていただきました。子ども2人を連れて、どこかに行こうと思ってはいても、なかなか遠くには連れていけない。ありがとうございました。

鉄道博物館では、子ども達はもちろん大はしゃぎで喜んでいました。大人の私でも、昔懐かしい電車やSLを見学させていただき、迫力もありとてもよかったです。新幹線の駅弁も購入することができて、これからの子どものお弁当作りに重宝しそうです。

このような機会を企画していただいたひとり親家庭福祉連合会の皆さま、ありがとうございました。今後また、参加させていただきたいと思います。(那須塩原市 A・I)

## 鉄道博物館に行ってみて

私は、10月5日に、家族で鉄道博物館に行きました。鉄道博物館は、7年前にも行ったことがありましたが、そのときの記憶はなく、初めて来たような感じでした。

いろいろな昔の電車を見たり、電車に乗ったりして、電車の歴史を感じました。最初は、電車にはあまり興味はなかったけれど、鉄道博物館に行ってみて、鉄道の長い歴史を知って勉強になりました。

電車を動かすシュミレーターをしたりして、たくさんの思い出ができました。おみやげもたくさん買いました。また行ってみたいです。

(栃本市 藤原千姫)



TRAIN /





## ひとり親家庭サポーターのつどい R1・11・24(日)

### 「発達障害って何？」～安心して子育てするために～



今年度のひとり親家庭サポーターのつどいは、お二人の講師をお迎えして、発達障害についてお話を伺いました。

初めに栃木県中央児童相談所 岩井幸祐氏の講話を聞きました。児童相談所は18歳以下の子どもの相談機関で、非行も多いですが、今の一番大きな課題は児童虐待だそうです。相談を受けたら心理診断をし、岩井氏は心理支援、心理相談を主に行っているそうです。心理を理解するとは、環境から受けた刺激を理解すること、とのことでした。

発達障害は、今ではメジャーな言葉です。具体的には学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉スペクトラム症で、知的な遅れを伴うこともあるそうです。自閉スペクトラム症の多くの人は、感覚のトラブルをもっているとのことでした。

発達障害も見方を変えるとプラスに捉えることができ、その力を発揮すると、努力が認められるそうです。いろいろな特性があるので、今の社会では生きづらくなりますが、社会にマッチすると、逆に大きな成功につながることもあります。

発達障害の問題点は、身体の不自由な人と違って外見ではわからないため誤解されやすいことです。周囲から理解されないと二次障害を起こすことがあるので、早く特性を理解し、発達を促す支援をすることが大事です。

次に、とちぎ・ふじ発達研究所 佐藤俊夫氏の講演を聞きました。

発達障害はまだ未開発な分野であるけれども、確実に増えているそうです。理解と対応についてですが、家庭での接し方では、生活のリズムの安定が前提で、特に睡眠時間が大切だということ。「たまに面接、訓練」より普段の生活の充実が大事で、それと同時にしっかりと運動すること、「きき手」と「ささえ手」をしっかりと定めること。また、生活の中で身に付けたい大切なことは、「妥協すること」だそうです。

そして、母親の存在がすべてだということ。私たち母親は、どんなときも子どもたちにとって大切な役割を担っているということ。その大切な役割を果たし、今後もひとり親として頑張っていこうと改めて感じました。  
(壬生町 森尻 真理)

発達障害は、最近NHKでもよくテーマになるほど注目されています。今回の「ひとり親家庭サポーターのつどい」では、発達障害の子どもたちと関わり、対応し研究されている岩井氏と佐藤氏から、貴重なお話を聴くことができました。

発達障害の子どもたちは、その特徴が周囲から理解されず、不適切な対応が積み重なると、自尊心の低下から情緒不安定になり、反抗的な行動などの二次障害につながってしまうということです。一人ひとり、その子の特性を理解して、適切なサポートと関わりが工夫をすることが必要です。

そして、どんなに重い障害も、その工夫でよい方向に向かうということでした。それは、歳がいくつになってもよくなるそうです。子どもだけでなく「大人の発達障害」という言葉も思い出しました。

発達障害は、確実に増えてきているそうです。誰にとっても身近なことであるのです。増えてきているのには、理由や意味もあるのではないかと思います。まだまだ未開発な分野であるそうです。

当日私は受付のお手伝いをしましたが、一般の参加の方も多く、年代もさまざま、男性の方もいらっしゃいました。最後に回収したアンケートでも、たくさんのご意見ご感想を目にし、販売の書籍もあつという間に完売と、皆さまの関心の高さを感じました。

もしご自分のお子さまが…となると、悩むことはたくさんあると思いますが、相談できる所がたくさんあり、支援もいろいろあります。全部はできなくても、少しの工夫でも未来は明るくなると思います。  
(那珂川町 石川 美奈子)

